

令和元年度萩市立萩西中学校 学校評価書 校長名(柳林 洋二)

1 学校教育目標

教育目標……自主的で実践力のある心豊かなたくましい生徒の育成
 中・長期目標……挨拶が飛び交う学校、清潔で美しい学校、歌声が響く学校、安心・安全な学校、開かれた学校

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

○生徒の学力状況を的確に分析し、課題を明確化したうえで全ての教科で課題の解決に取り組んでいく。
 ○家庭学習の充実をめざした取組とともに、基礎基本の理解が不十分な生徒に対する個別の支援が不可欠である。
 ○不登校生徒への対応等、関係機関とのより密接な連携を工夫するとともに、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう教育相談体制を整える。
 ○学校行事や部活動等において、生徒の主体的な活動を支援し、生徒一人ひとりの自己肯定感を高めていく。道徳や総合的な学習の時間を工夫し「志・郷土愛」を育む。
 ○生徒が地域で活動する場を設け、地域貢献に取り組めるよう支援し、学校と地域の距離を縮めることで、地域の学校運営への参画を進めていく。
 ○全教職員で知恵を出し合い、効率的な学校運営の実現を目指し、保護者、地域の理解や協力を得ながら業務改善を進めていく。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業改善を図る。(学習指導・キャリア教育)
- 一人ひとりの存在感がある心が通い合う集団をつくる。(心の教育・生徒指導・特別支援教育)
- 命を大切に、心身共に健康で安全な生活を送るための意識と能力を育てる。(体育・健康・安全教育)

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	5 学校関係者評価	評価
学習指導	主体的・対話的で深い学びの視座に立った授業改善と基礎・基本の定着	○主体的・対話的で深い学びにつながる学習課題の設定と学習形態の工夫 ○授業と連動した家庭学習や小テスト、プレテスト等を活用した自主学習の定着支援	○主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を心がけている教師の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○授業が充実するよう、生徒や保護者に積極的に働きかけた教師の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.3 (3.1)	○それぞれの教員が、アクティブラーニングの手法を取り入れたり、授業のねらいと振り返りを工夫したりしながら、研究授業や互見授業を行っている。また、学力向上推進リーダー・英語教育推進教員の指導を受けたり、ユニット型研修を実施し多様な客観的な指導助言を得たりしながら、授業力向上への取組を続けている。 ○各学年で、週末課題を出したり、自主学習ノートの提出を徹底したりしながら、家庭学習時間の確保と充実に向けて取り組んでいる。生徒や保護者の評価の数字が高くないので、生徒に対して学習方法の周知や定期的な指導助言を行うとともに保護者に向けての発信を行う必要があると考える。	○授業への取組については良く対応してもらっていることは理解できるが、生徒、家庭への働きかけをまんべんなくできる様に努めて頂きたい。 ○生徒の状況として応用が苦手であったり、不得意教科があったりするようなので、個々に合った細かい指導が必要だと思います。もっと「はるかぜ」を利用してもらう事を考えてはいかがでしょうか。 ○その単元や時間の目標、そして将来の見通しなどを生徒が明確に持てるような働きかけや授業改善をされるとよい。小学校と連携した授業改善を。	A
生徒指導・教育相談・特別支援教育	自己指導力を高める生徒指導の推進及び生徒一人ひとりを大切に心を通い合う集団	○自他の尊重に基づく自律活動の徹底(身だしなみ・学習規律・黙想・無言清掃) ○教育相談の機会拡充と取組の工夫及び多面的な生徒理解のための情報共有の徹底 ○学級生活満足度(学級安心バロメータチェック)100%を、目指す	○挨拶やまじりの遵守など自主的に取り組んでいる生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○困った時や悩み事がある時に支援(学習支援・悩み相談等)体制が整っていると感じている生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○学校生活満足度の生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.7 (3.2)	○教職員の共通理解による共通実践と、生徒会活動を中心とした自治的活動の相乗効果から、規範意識は高まっていると考えられる。 ○担任による萩西ノートを活用したレポートづくり、週末アンケートによる生徒の悩みを早期発見・早期対応、定期教育相談活動による場の設定などを通じ、生徒理解に努めることができている。また、Tダイアリーや職員朝礼・週一回の生徒指導部会等で、情報の共有や共通理解が図られている。また、生徒アンケートの結果から相談しにくく感じている生徒が全体の4分の一程度おり、教員サイドの毅然と指導に当たる面とレポートづくりを図る面とのバランスが課題となると考える。 ○数値が低い生徒に注目し、個別面談や萩西ノートのやりとりで生徒理解に努める。また、自分の行動が認められる仕組みを構築するなど、工夫を凝らした学級経営を行い、学級が心地の良い空間になるように努めることが肝要である。	○生徒会役員や各委員の生徒との話し合いの場を持ったことで、学校を良くしていきたいという意識の高さを感じることが出来た。又、今年度は先生方との話し合いの場を持てたことも良かったと思います。 ○先生と生徒の信頼関係があり、個別面談や萩西ノートの活用において、生徒との心のラリーが構築できれば、良いツールだと思います。生徒各々の意志の尊重を大事にしつつ、適宜な指導をお願いします。 ○先生方の指導は学校内外での生徒のあいさつや態度に現れていると思います。これからも集団の中の自分の立ち位置が理解できる生徒になってほしい。 ○いつでもだれでも何でも相談できる雰囲気づくりを普段からつづけて頂ければと思います。	A
「心・命・健康・安全」の教育	主体的・対話的で深い学びを踏まえた道徳の授業及び特別活動や総合的な学習の時間等での体験活動の充実による心豊かな生徒の育成	○主体的・対話的で深い学びを踏まえながら、「志・郷土愛」をばくくむ道徳授業や体験活動の充実および「命・健康・安全」を重視した心の教育の充実 ○生徒の主体的な参画を促進する学校行事・部活動の運営	○主体的・対話的で深い学びを踏まえた道徳授業や諸活動において、生徒が「志」や夢、目標をもてるような取組を工夫した教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加し満足感を得ている生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.3 (3.1)	○生徒アンケートの結果では、1学期末よりもあがっている。有用感を得ているように感じる。しかし、教職員の評価はさほどでもない。今年度は、道徳の教科化ということで教科書を使用しているが、対話的で深い学びにつながりにくいものもある。各学年で授業前後に発問等についての検討を行っている。その記録を残し、生徒の学びが深まるようにしていく必要がある。 保護者の評価が高くないのは、学んだことが日常生活に結び付いていないことが考えられる。総合的な学習のより一層の充実と日々の授業や生活場面で指導助言を根気強く続けていく必要があると考える。 ○多くの場面で、生徒が主体性を発揮していた。しかし、生徒の主体性と教職員の支援のバランスがとれていないときがあるので、生徒任せにせず、目的を明確にして、計画性をもって支援していく必要がある。	○道徳は実践を積み重ね、生徒自身が新たな気づきや自分を見つめることができる主発問を行えるようになる。生徒も自分の生き方に直結する学習として、楽しみになると思う。 ○道徳が教科化されていますが、生徒と教員だけではなく、保護者を含めた授業を多く行い、三者で考えていくことができれば、もっと深い学びが深まるのでは？生徒の多くが中学校生活の思い出として文化祭や体育祭など自主的に活動する事にあるようなので、できるだけ協力して頂きたい。 ○地域の良さを知り、夢が語られるそんな生徒に	B
地域保護者・CS	コミュニティ・スクール推進のための家庭・地域との連携強化と双方向の教育活動の充実	○コミュニティ・スクールや地域協育ネットを活用した地域と連携した教育活動の企画・実践 ○双方向の情報発信の取組の工夫・改善	○学校運営協議会の部会活動を核とした取組が活性化されたと感じている教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○各種通信・HPで学校の様子がよくわかったと感じる保護者の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.0 (2.9)	○今年度は学校運営協議会を3部会に分け、教職員・保護者・学校運営協議会委員の三者がお互いに係る機会を増やすことが出来た。学習部会においては、ユニット型研修を実施し、授業改善につなげることが出来た。環境部会においては、校内環境整備の計画段階から、学校運営協議会委員とPTAが連携し、企画運営を進めることが出来た。安全部会においても、交通安全や地域の見回り活動で両者が連携して取組を進めた。来年度も継続していきたい。 ○生徒指導通信、学級だより、学年通信、学校だより、ホームページなど、学校生活の様子が発信されているので、評価結果の数値は良好である。自由記述には苦言をいただいたが、保護者が学校教育に関心をもっている表れであると考え、苦言に対しては誠意を持って対応したい。	○ホームページの活用により、連携したスケジュールの把握や活動が可視化されることは良いことだと思います。 ○先生方、地域の方々の中にはCS(コムスク)への負担がある様に感じられる。ハードルを下げることも必要かも。 ○今年度は部会等を通じて教職員や保護者の皆さんと係わる事ができ、お互いの理解が進んでいると思います。 ○木間分室では、福祉ふれあい協議会で地域活動の問題を話し合っている。小中学校の校区内の出来事、行事に参加し、交通の不便さも話しています。	B
業務改善	日常的な業務						
	業務の効率化	○業務のスリム化と支援体制充実による負担軽減	○支援体制の充実や業務のスリム化により、負担が軽減していると感じている教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.1 (2.5)	○教職員評価の数値が2.6から3.1と改善されている。部活動週休2日や2学期中間テストを業者テストに変えたことや通知表の所見をなくしたことなど、思い切った業務の効率化の成果が現れてきている。教職員の負担感も軽減されてきたが、2学期の時間外業務時間は1学期より増加している。さらなる業務のスリム化を推し進めたい。	○部活動週休2日などの効率化はとも良かったと思います。部活の休みは生徒たちにとっても休息になったのでは…。家庭学習にもつながるといいですね。 ○少しずつですが、業務改善が進んでいると感じます。今後も一つずつ問題解決に向けて教職員の皆さんで協力しながら進めて頂ければと思います。生徒や保護者の皆さんにも理解して頂き、協力してもらえようになれば良いと思います。 ○先生の年休、振休は必要。休むことで、生徒との会話、コミュニケーションもとれて良いと思う。「先生が元気で下さい。」	B
	勤務状況の改善	○年休・振休の積極的な取得と気兼ねなく取得できる環境づくり	○積極的な年休取得(年間10日以上) 4:10日以上8割 3:6割程度 2:3割程度 1:3割未満	2.5 (2.4)	○教職員評価の数値が2.2から2.5と上昇している。今年度は、希望すれば年休が取れる雰囲気を感じるという感想もあつた。学年中での調整を学年主任に指示するとともに、全体にも年休を計画的にとるように呼びかける。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

○全校体制で授業改善が進んでいる。学力向上推進リーダー・英語教育推進教員・ユニット型研修での客観的な指導助言を得ながら、授業実践の検証を行っている。家庭学習の充実が課題である。
 ○教職員の共通理解による共通実践と、生徒会活動を中心とした自治的活動の相乗効果から、規範意識は高まっている。多面的な生徒理解のための情報共有も徹底されている。次年度に向けて、特別支援教育のさらなる充実が必要である。
 ○学校行事、部活動において、生徒の主体的な活動が保障され、保護者、地域から高く評価されている。夢や志をもつ生徒の育成に力を入れることが肝要である。
 ○教職員・保護者・地域・学校運営協議会の活動において、共通理解ができてお互いの理解が深まった。また、今年度は学校運営協議会を3部会に分け、教職員・保護者・学校運営協議会委員の三者がお互いに係る機会を増やすことが出来た。
 ○思い切った業務の効率化を行い、教職員の負担感も軽減されている。時間外業務時間はやや増加傾向にあるので、保護者や地域等の理解や協力も得ながら更なる業務削減・効率化を図る必要がある。

7 次年度への改善策

- 令和3年度に向け、授業改善とカリキュラムマネジメントが両輪となるように研修を進める。夢や志をもつ生徒に育成に努めながら、家庭学習の取組に対する意識を高める。
- 特別支援学級の増加に伴い、特別支援教育の更なる充実を図る。
- 総合的な学習、学校行事、部活動において、生徒の主体的な活動を通して、夢や志をもつ生徒を育成する。
- 今年度と同様に、教職員・保護者・学校運営協議会が三位一体となって、学校支援・地域貢献を進めていく。
- 保護者や地域の協力を得ながら、中間テストの業者テスト化をさらに推し進める。統合できる取組に関しては、統合していく。